

米国酪農・肉用牛業界の展望

～2022年農業アウトルック・フォーラムから～

2022年度（独）農畜産業振興機構
「alicセミナー」2022年5月～6月

（独）日本貿易振興機構（ジェトロ）
ニューヨーク事務所 岡田卓也

講演の流れ

I 米国酪農・乳業の展望

- 生乳供給量と消費量
- 飼養頭数と生乳生産量
- 主要乳製品の需給動向と卸売価格
- 全米平均総合乳価
- 乳製品輸出入

II 米国肉用牛・牛肉の展望

- と畜頭数
- 飼養頭数と牛肉生産量
- 肥育牛平均価格
- 牛肉輸出入
- 米国政府と食肉業界の牛肉輸出の取組
- 米政権アクションプラン

I 米国酪農・乳業の展望

生乳供給量と消費量の推移

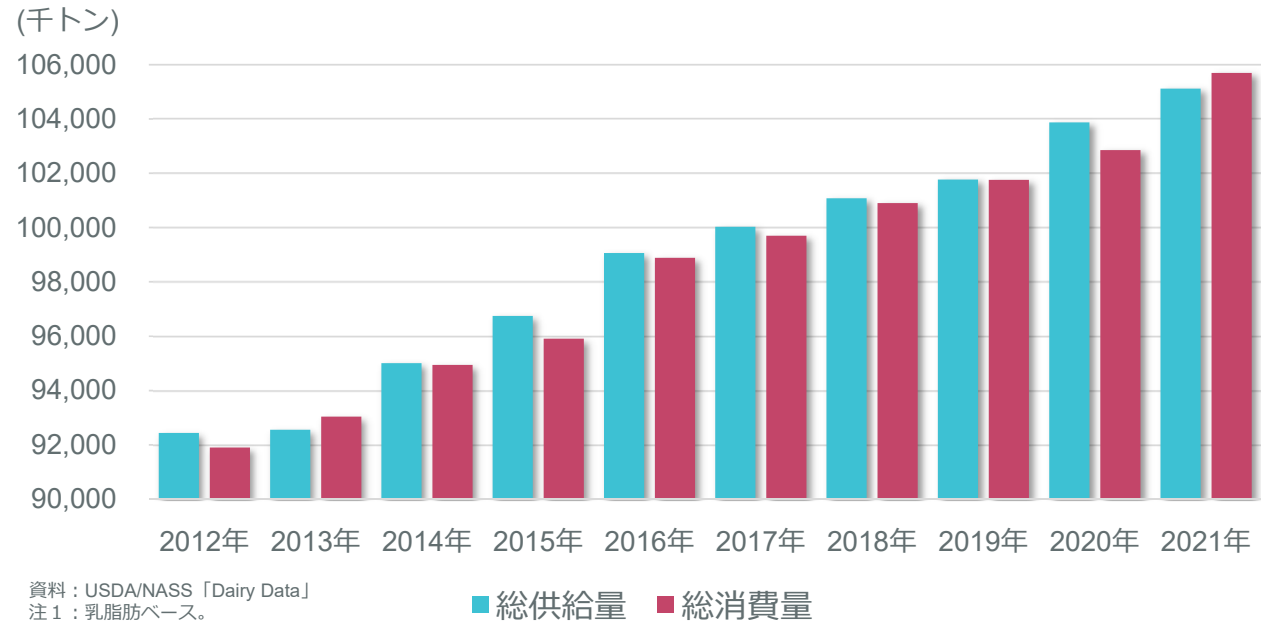
01

2021年～22年は
米国酪農家に
厳しい状況が続く

- 生産コストの高騰、干ばつによる牧草不足が酪農経営に影響。
- 生乳生産量は伸び悩む一方で、国内外の乳製品需要は増加。

相対的に**生乳供給がひっ迫**

生乳の総供給量と総消費量



資料：USDA/NASS「Dairy Data」
注1：乳脂肪ベース。
注2：商業用のみを計上。
注3：政府による寄付等を除く数値。

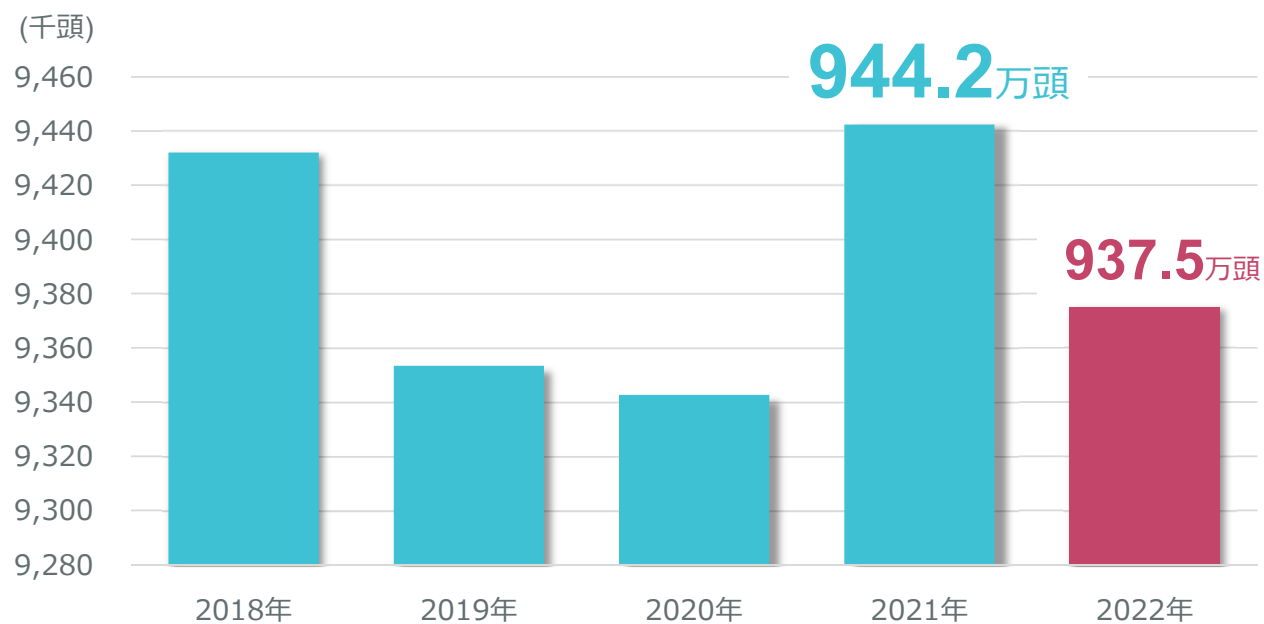
2021年 乳用経産牛飼養頭数

02

2021年飼養頭数は減少傾向

- 2021年後半から**減少傾向**に。
- 2022年1月1日時点では前年同日を下回った。

乳用牛飼養頭数の推移（各年1月1日時点）



資料：USDA/NASS「Cattle」
注：乳用経産牛頭数には、乾乳期の乳用牛を含む

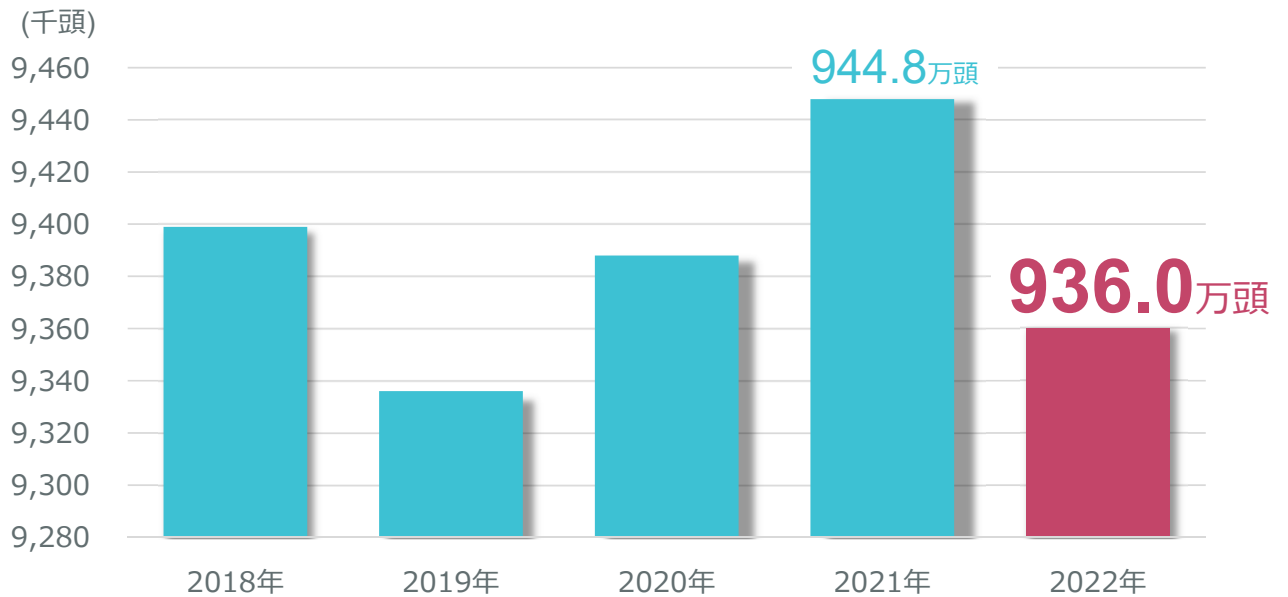
2022年 乳用経産牛飼養頭数

03

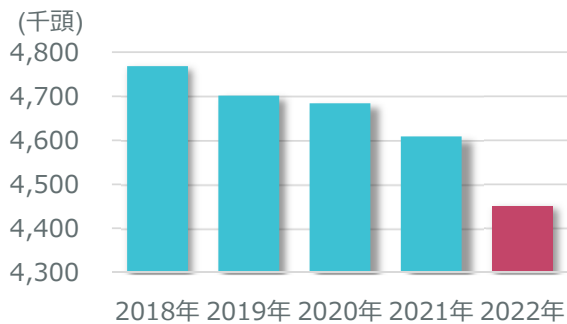
2022年飼養頭数も減少傾向が継続

- 2022年1月1日時点の**乳用後継牛頭数も減少**。
- 2022年の平均飼養頭数は**2021年を下回る**見通し。

乳用牛年間平均飼養頭数の推移



乳用後継牛頭数 (各年1月1日時点)



資料 : USDA/NASS 「Cattle」

資料 : USDA/NASS 「Milk Production」
注1 : 乳用経産牛頭数には、乾乳期の乳用牛を含む。
注2 : 2022年は予測値。

Copyright © 2022 JETRO. All rights reserved.

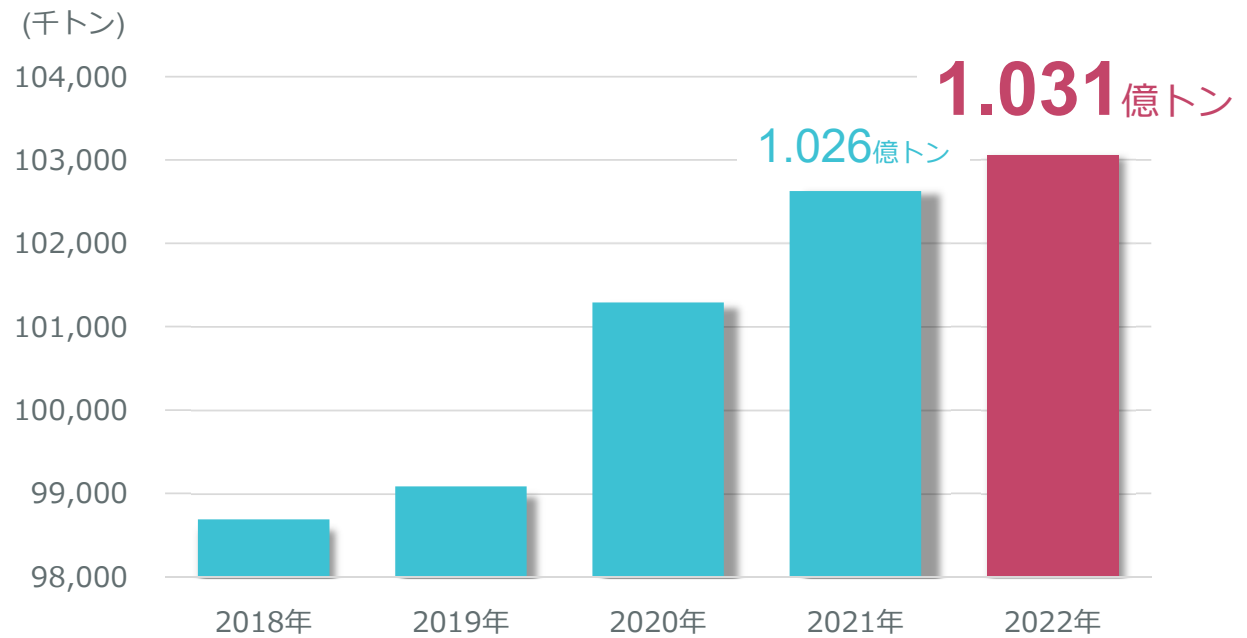
2022年 生乳生産量

04

生乳生産量は
わずかに増加見通し

- 1頭当たり年間乳量は引き続き増加。
- 飼養頭数の減少を補い生乳生産量は**わずかに増加**。

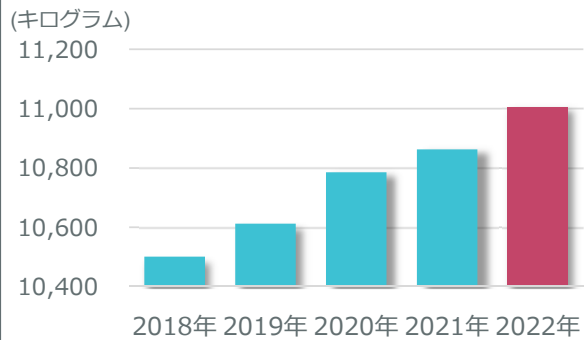
生乳生産量の推移



資料：USDA/NASS「Milk Production」
注：2022年は予測値。

Copyright © 2022 JETRO. All rights reserved.

1頭当たり年間乳量



資料：USDA/NASS「Milk Production」

バターの需給動向と卸売価格

05

バターは生産量の減少により供給量が伸び悩み需要は増加し卸売価格が上昇

- 総供給量は2021年9月以降は前年同月を下回り、伸び悩む。
- 総消費量は増加。

バターの供給量と消費量

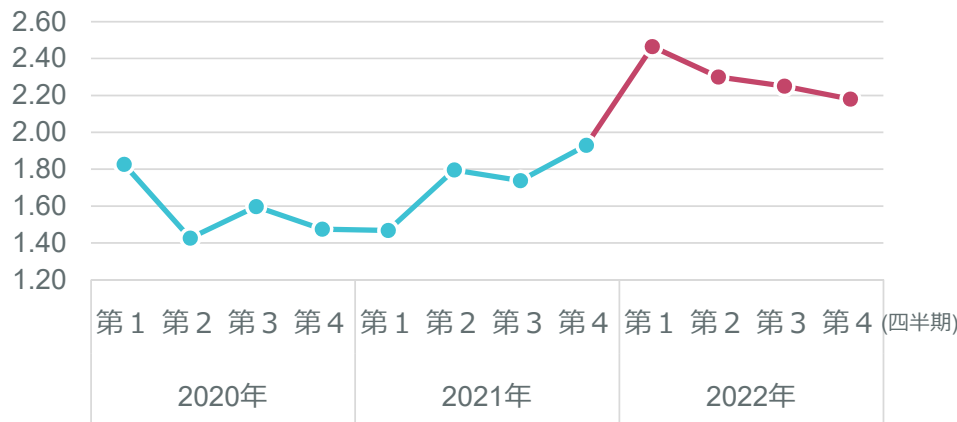
(単位：千トン)

	総供給量				総消費量			期末在庫
	期首在庫	生産量	輸入量	国内消費量	輸出量			
2018年	77	893	36	897	26	81		
2019年	81	905	38	919	19	86		
2020年	86	973	38	948	21	124		
2021年	124	936	46	971	45	90		

資料：USDA/NASS「Dairy Data」
注1：商業用のみを計上。
注2：政府による寄付等を除く数値。

(米ドル/ポンド)

バター卸売価格の推移



- 需給バランスを反映し、**卸売価格は上昇。**

チーズの需給動向と卸売価格

06

チーズは
需要増加に伴い
生産量・輸入量増加
卸売価格も上昇

- 米国内外の需要が増加し、国内消費量および輸出量が増加。
- 米国内の需要の増加を受け、生産量および輸入量が増加し、期末在庫は過去最高に。

チーズの供給量と消費量

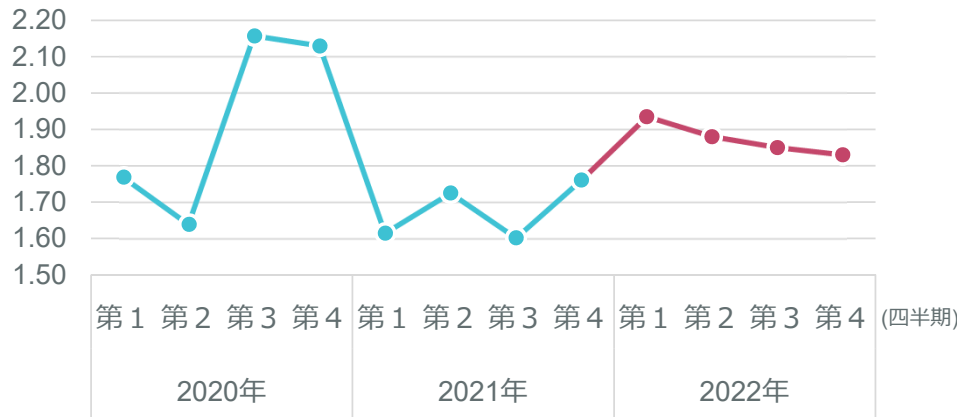
(単位：千トン)

	総供給量				総消費量			期末在庫
	期首在庫	生産量	輸入量	国内消費量	輸出量			
2018年	581	5,914	138	5,675	348	610		
2019年	610	5,959	140	5,746	357	600		
2020年	600	6,012	128	5,744	355	633		
2021年	633	6,176	145	5,895	405	654		

資料：USDA/NASS「Dairy Data」
注1：商業用のみを計上。
注2：政府による寄付等を除く数値。

(米ドル/ポンド)

チーズ卸売価格の推移



- 需給バランスを反映し、**卸売価格は上昇傾向。**
- チーズ生産能力の向上もあり、**年間を通じてほぼ横ばい。**

資料：USDA/ERS「Livestock, Dairy, Poultry Outlook」
注1：2022年は予測値。
注2：チェダーチーズ価格。

脱脂粉乳の需給動向と卸売価格

07

脱脂粉乳は生産量の減少により供給量が減少
需要は増加し卸売価格が上昇

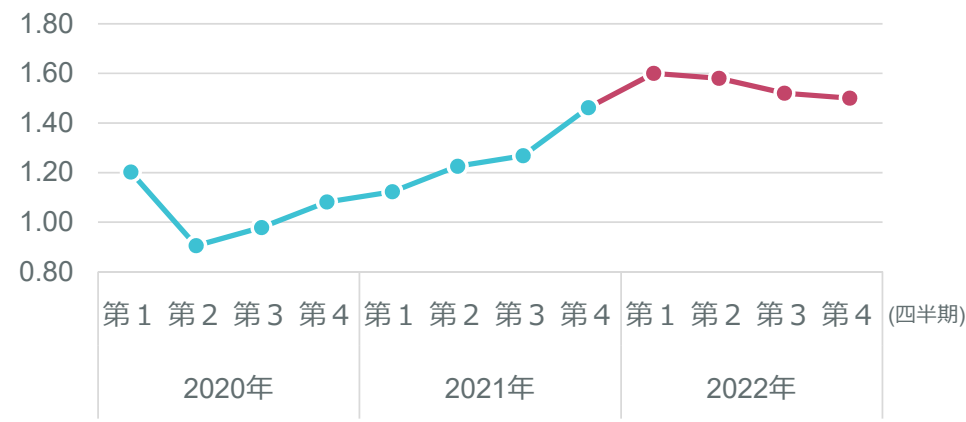
- 生産量減少により、総供給量は減少。
- 価格上昇により消費量は減少。

脱脂粉乳の供給量と消費量 (単位：千トン)

	総供給量				総消費量			期末在庫
	期首在庫	生産量	輸入量	国内消費量	輸出量			
2018年	1,214	1,067	1.2	369	712	133		
2019年	1,240	1,107	0.3	420	701	118		
2020年	1,345	1,227	0.7	397	810	134		
2021年	1,308	1,174	0.4	299	893	117		

資料：USDA/NASS「Dairy Data」
注1：商業用のみを計上。
注2：政府による寄付等を除く数値。

(米ドル/ポンド) 脱脂粉乳卸売価格の推移



□ 需給バランスを反映し、
卸売価格は高値を維持。

資料：USDA/ERS「Livestock, Dairy, Poultry Outlook」
注：2022年は予測値。

乾燥ホエイの需給動向と卸売価格

08

乾燥ホエイは生産量の減少により供給量が減少
供給量減少は続き卸売価格が上昇

- 生産量の減少により、総供給量が減少。
- 世界的に供給ひっ迫の状態であるため、輸出量は増加。

乾燥ホエイの供給量と消費量

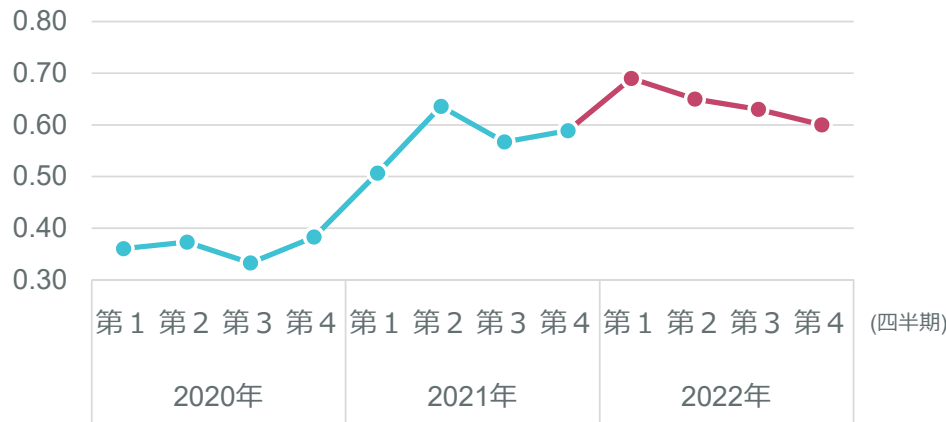
(単位：千トン)

	総供給量				総消費量			期末在庫
	期首在庫	生産量	輸入量	国内消費量	輸出量			
2018年	498	44	453	0.5	466	245	221	32
2019年	476	32	443	0.0	443	290	154	32
2020年	464	32	431	0.2	434	220	214	30
2021年	450	30	420	0.7	424	199	225	26

資料：USDA/NASS「Dairy Data」
注1：商業用のみを計上。
注2：政府による寄付等を除く数値。

(米ドル/ポンド)

乾燥ホエイ卸売価格の推移



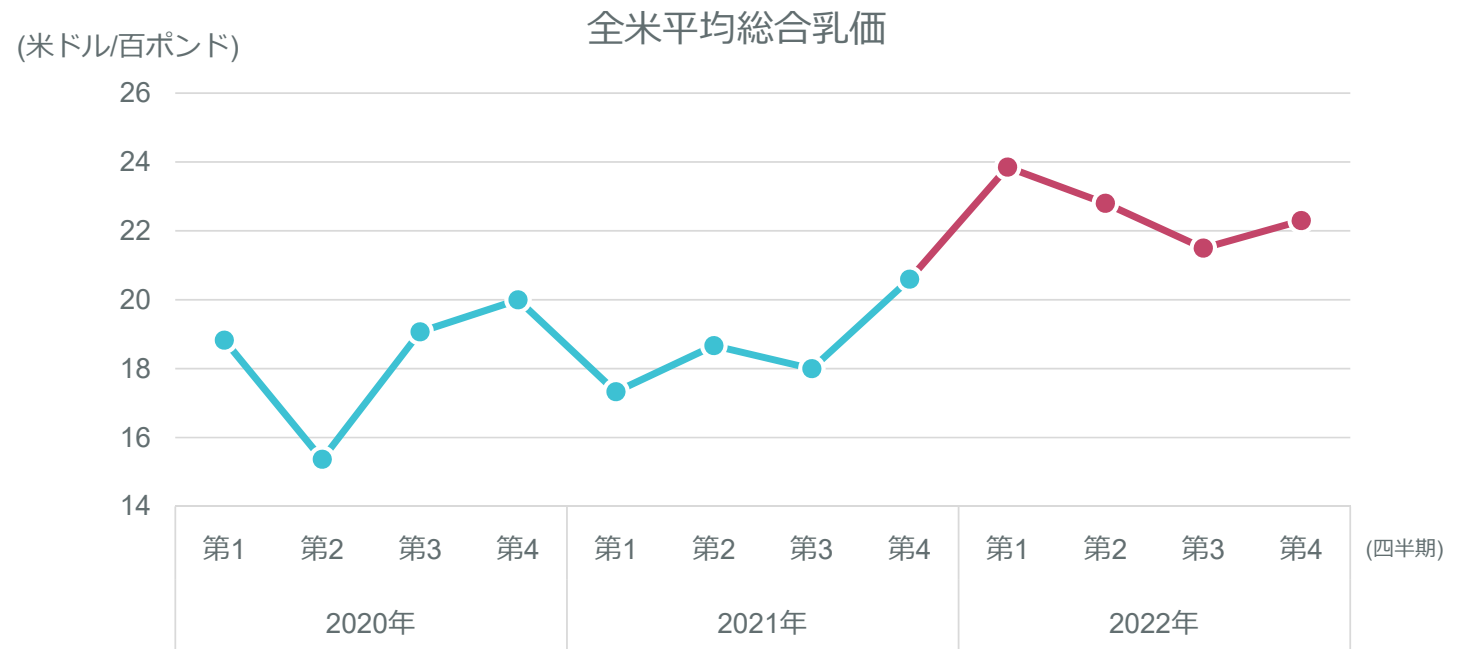
- 2022年後半まで供給量が減少するため、**卸売価格は高値を維持。**

2022年 全米平均総合乳価

09

乳価は上昇傾向

- ・ 生乳需要が増加する中、相対的に生乳の供給がひっ迫。
- ・ 乳製品の卸売価格の上昇に伴い、**乳価が上昇**。

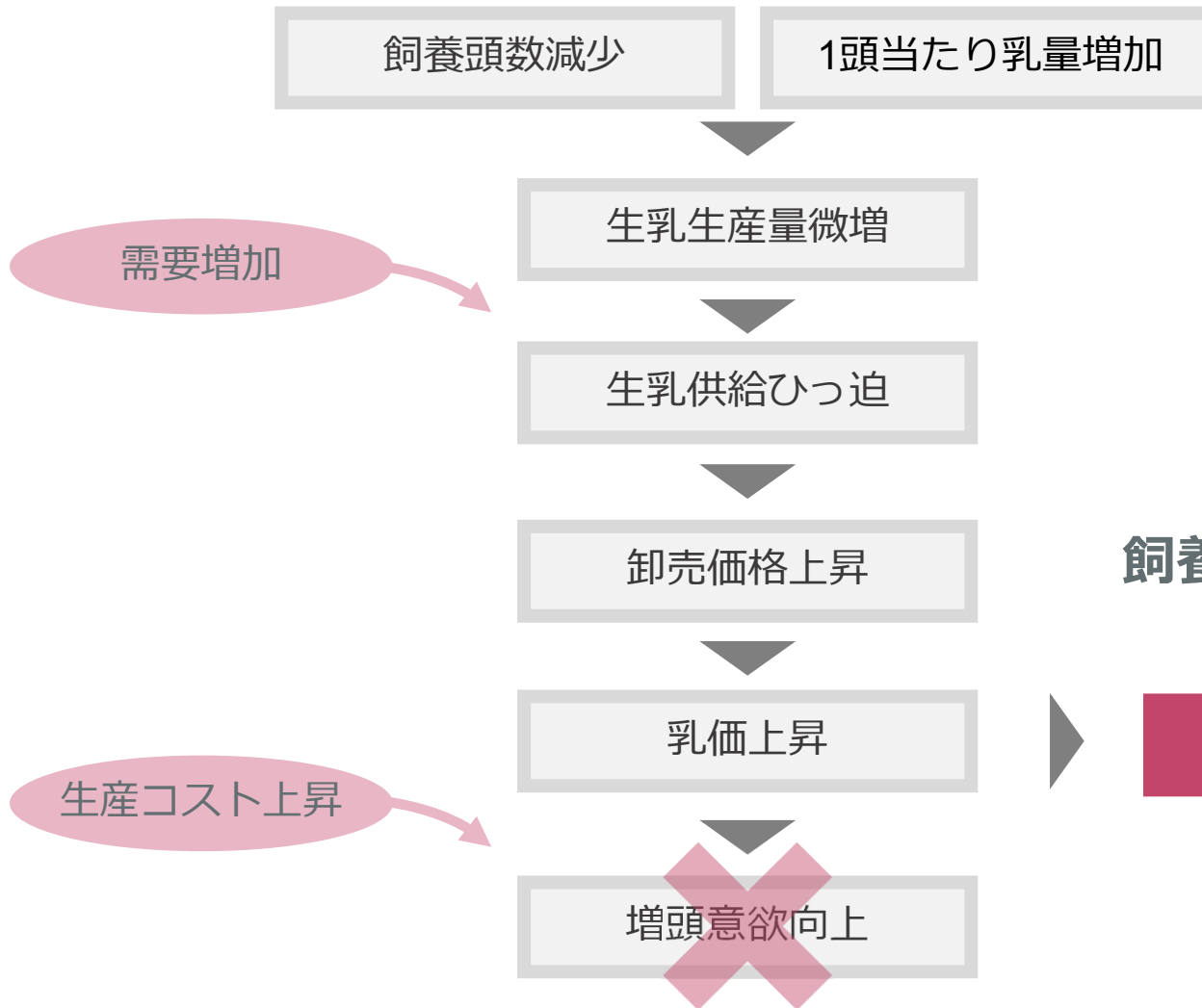


資料：USDA/WAOB「WASDE」
注：2022年は予測値。

米国酪農業界の動向まとめ

10

乳価は上昇するが
生産コストの上昇と
相殺されるため
増頭意欲は抑制



乳製品の輸出入

11

2022年は
乳脂肪ベースで
輸出量減少
輸入量増加

- 2021年の乳製品輸出は、乳脂肪ベースでも無脂乳固形分ベースでも増加。
- 2022年の乳製品輸出は、
 - ・ **乳脂肪ベース**では**輸出量減少・輸入量増加**
 - ・ **無脂乳固形分ベース**では**輸出量増加・輸入量減少**の見通し。

乳製品輸出量（乳脂肪ベース・無脂乳固形分ベース）（単位：千トン）

	2018年	2019年	2020年	2021年		2022年	
				前年比(%)	前年比(%)		
乳脂肪ベース	4,706	4,128	4,201	5,270	25.4	4,990	▲5.3
無脂乳固形分ベース	20,247	18,839	21,417	23,192	8.3	23,224	0.1

乳製品輸入量（乳脂肪ベース・無脂乳固形分ベース）（単位：千トン）

	2018年	2019年	2020年	2021年		2022年	
				前年比(%)	前年比(%)		
乳脂肪ベース	2,855	3,148	3,073	2,964	▲3.5	3,130	5.6
無脂乳固形分ベース	2,490	2,638	2,541	2,615	2.9	2,585	▲1.1

資料：USDA/NASS「Dairy Data」
注1：商業用のみを計上。
注2：政府による寄付等を除く数値。
注3：2022年は予測値。

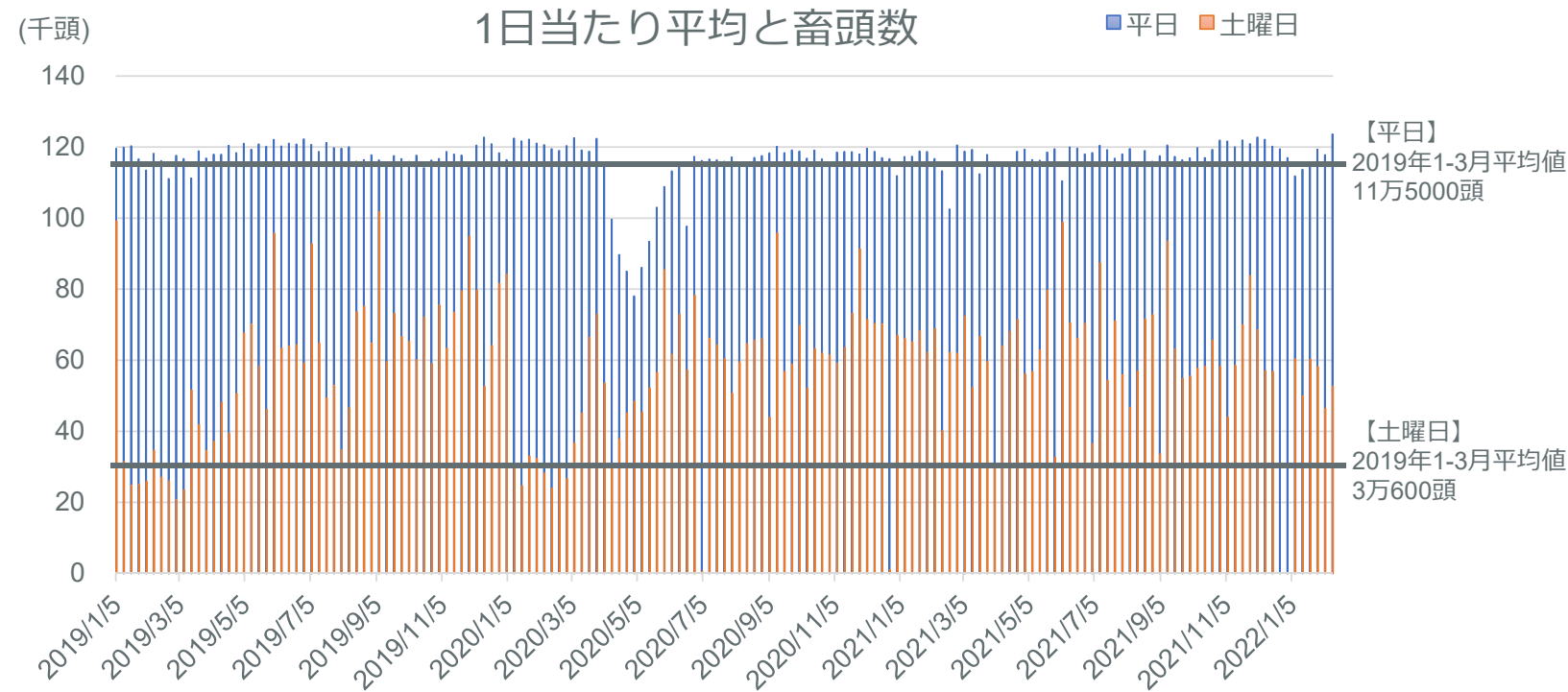
Ⅱ 米国肉用牛・牛肉の展望

と畜頭数の推移

01

と畜頭数は回復

- ・ 2020年3月～5月にかけて大幅に減少した **と畜頭数は回復**
- ・ 2022年1月～2月のと畜頭数はパンデミック前の水準に。



資料：USDA/AMS

注1：と畜頭数は連邦政府検査ベースによる数値。

注2：各週の1日当たり平均と畜頭数を計上。

総飼養頭数

02

2021年飼養頭数は減少傾向

- 2022年1月1日時点の**牛総飼養頭数**、**経産牛**、**未經産牛**はいずれも**減少**。
- 未經産牛のうち**肉用繁殖後継牛**も**減少**。

牛総飼養頭数およびその内訳（各年1月1日時点）

（単位：千頭）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	前年比(%)
牛総飼養頭数	94,298	94,805	93,793	93,790	91,902	▲2.0
うち経産牛	40,898	41,044	40,681	40,286	39,500	▲2.0
うち肉用種	31,466	31,691	31,339	30,844	30,125	▲2.3
うち未經産牛	20,218	20,210	20,024	20,200	19,776	▲2.1
うち肉用繁殖後継牛	6,108	5,885	5,809	5,803	5,612	▲3.3
うち年内分娩予定牛	3,763	3,529	3,500	3,510	3,412	▲2.8

資料：USDA/NASS「Cattle」

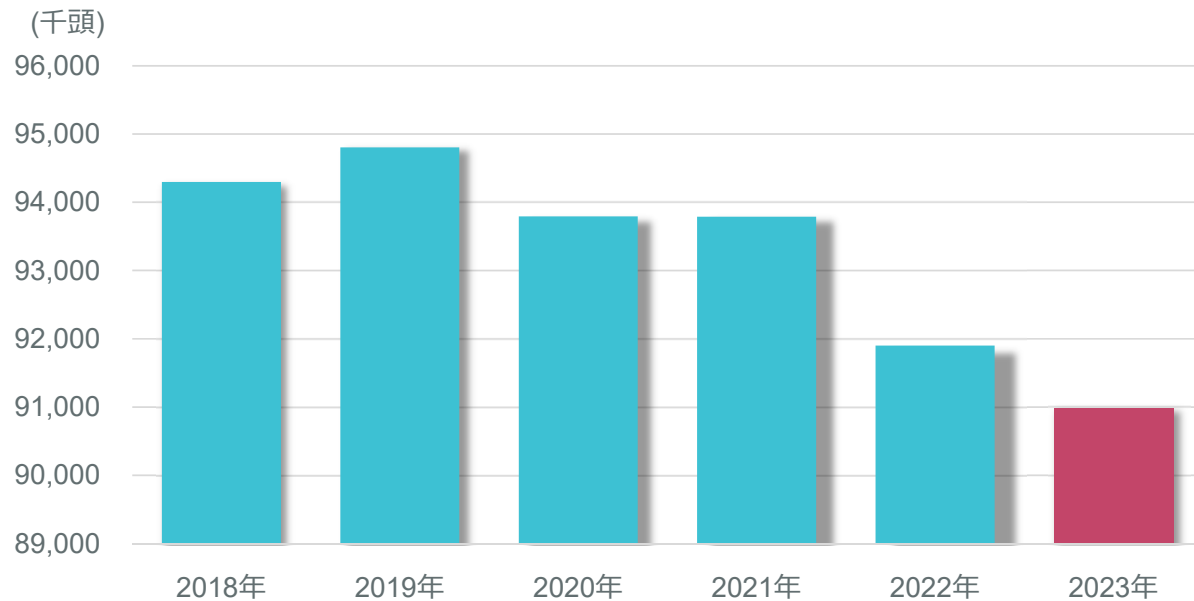
総飼養頭数

03

2022年飼養頭数も減少傾向が継続

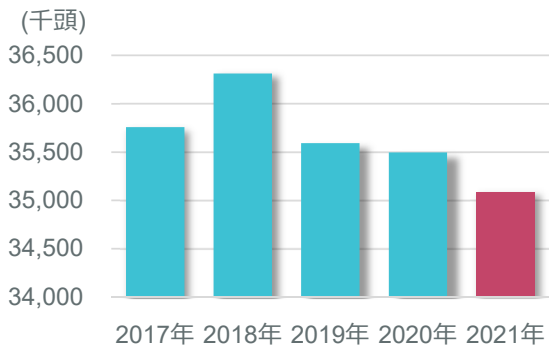
- 2021年の**子牛出生頭数も減少**。
- 分娩予定牛も減少し、2023年1月1日時点の**総飼養頭数も減少する見通し**。

牛総飼養頭数（各年1月1日時点）



資料：USDA/NASS「Cattle」
注：2023年は予測値。

子牛出生頭数



資料：USDA/NASS「Cattle」

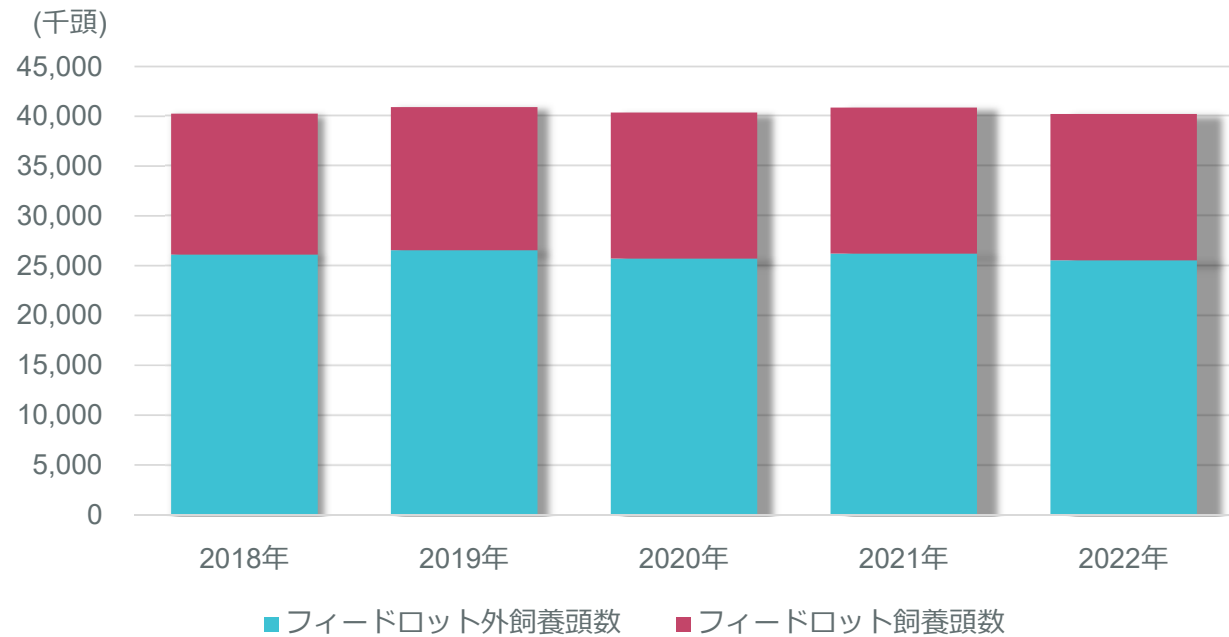
フィードロット飼養頭数

04

干ばつの影響もあり
FLへの導入が進行

- 2022年1月1日時点の**肥育仕向け予定頭数は減少**。
- フィードロット（FL）飼養頭数はわずかに増加したが、FL外飼養頭数は減少。

肥育仕向け予定頭数（各年1月1日時点）

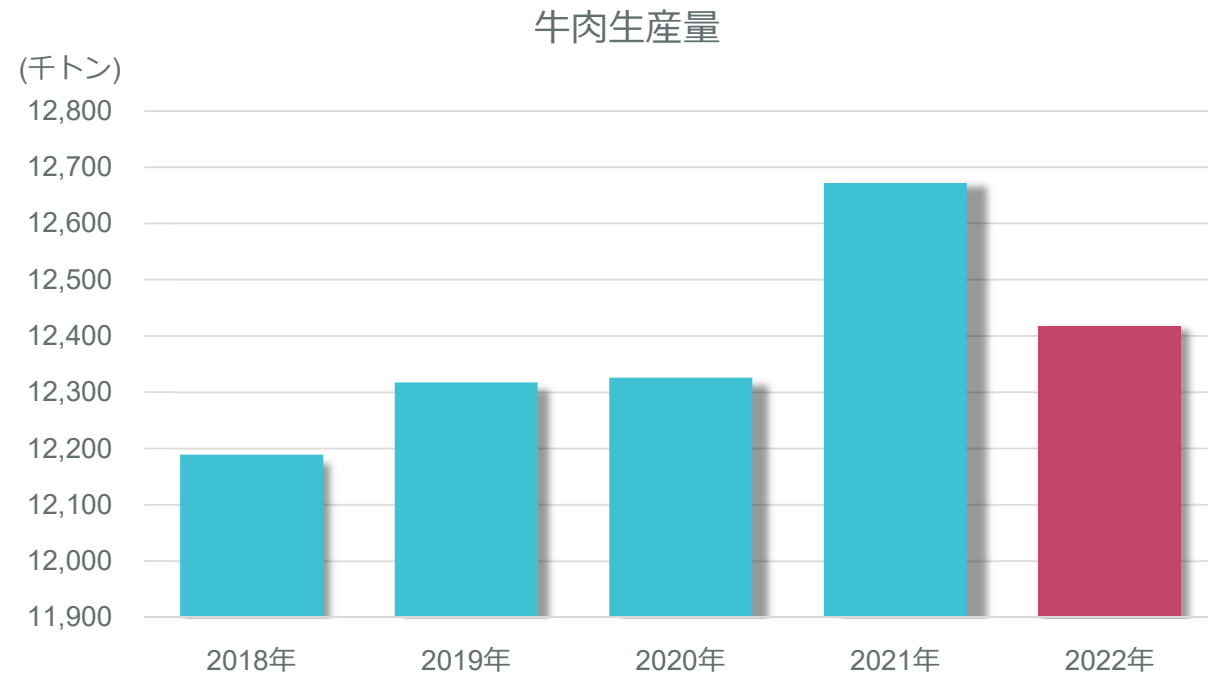


牛肉生産量

05

2022年牛肉生産量は減少する見通し

- 2021年の牛肉生産量は増加。
- FL飼養頭数が減少しているため、2022年の**牛肉生産量は減少**する見通し。



資料：USDA/WAOB「WASDE」

注1：枝肉重量ベース。

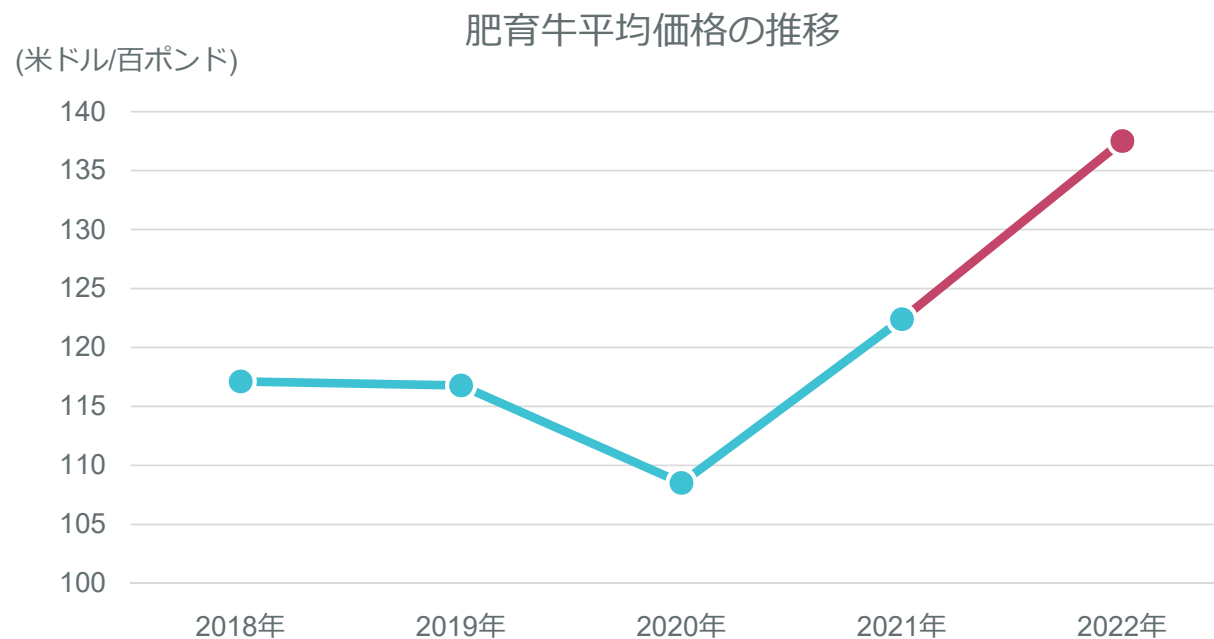
注2：2022年は予測値。

肥育牛平均価格

06

肥育牛価格は
上昇傾向が継続

- 肥育牛供給量の減少、牛肉需要の増加により、2021年肥育牛価格は上昇。
- この状況が継続し、**2022年肥育牛価格はさらに上昇**する見通し。



資料：USDA/WAOB「WASDE」

注1：2022年は予測値。

注2：数値は主要5地域の肥育牛平均生体価格。

牛肉輸出量

07

2021年牛肉輸出量は大幅に増加

- 2021年牛肉輸出量は、**韓国、中国への輸出量の増加**により、**大幅に増加**。
- 日本、メキシコ、カナダ、台湾への輸出量は減少。

輸出先別牛肉輸出量

(単位：千トン)

	2018年	2019年	2020年		2021年			
			前年比(%)	シェア(%)	前年比(%)	シェア(%)	シェア(%)	
日本	402	363	375	3.5	28.0	375	▲ 0.1	24.0
韓国	289	310	302	▲ 2.5	22.6	356	17.9	22.8
中国	10	15	54	271.2	4.0	245	354.1	15.7
メキシコ	204	193	145	▲ 24.7	10.8	143	▲ 1.2	9.2
カナダ	136	122	130	6.7	9.7	126	▲ 2.6	8.1
台湾	84	90	90	▲ 0.1	6.7	89	▲ 0.8	5.7
香港	139	105	100	▲ 4.7	7.5	57	▲ 43.5	3.6
インドネシア	10	15	15	▲ 0.2	1.1	20	32.3	1.3
フィリピン	19	21	15	▲ 25.6	1.2	16	4.8	1.0
チリ	13	13	10	▲ 29.0	0.7	12	27.9	0.8
その他	128	127	102	▲ 19.7	7.6	123	20.6	7.9
合計	1,433	1,373	1,339	▲ 2.5	100	1,564	16.8	100

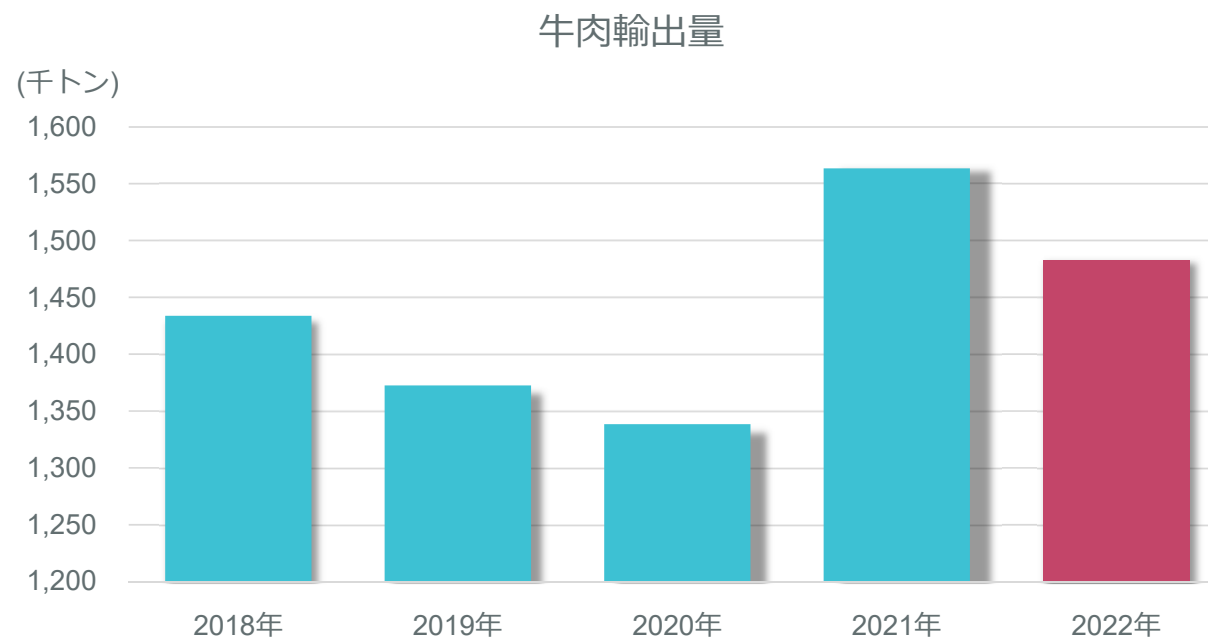
資料：USDA/ERS「Livestock, Dairy, Poultry Outlook」
注：数値は枝肉重量ベース。

牛肉輸出量

08

2022年牛肉輸出量は減少見通し

- 2021年牛肉輸出量は大幅に増加。
- 牛肉生産量の減少、他国産牛肉との競争激化により、2022年**牛肉輸出量は減少**する見通し。



資料：USDA/WAOB「WASDE」

注1：2022年は予測値。

注2：数値は枝肉重量ベース。

牛肉輸入量

09

輸入先国ごとに
変動があったものの
2021年の輸入量は
ほぼ前年同

- 2021年牛肉輸入量は、ほぼ前年同。
- 豪州産牛肉の減少が**カナダ、メキシコ、ブラジル産牛肉の増加**によって相殺。

輸入先別牛肉輸入量

(単位：千トン)

	2018年	2019年	2020年		2021年			
			前年比(%)	シェア(%)	前年比(%)	シェア(%)	シェア(%)	
カナダ	359	385	374	▲ 2.6	24.7	427	14.2	28.1
メキシコ	231	263	295	12.3	19.5	306	3.6	20.2
ニュージーランド	260	182	234	28.6	15.4	228	▲ 2.4	15.0
豪州	305	325	301	▲ 7.5	19.8	187	▲ 37.7	12.3
ブラジル	64	74	100	35.4	6.6	168	67.1	11.0
ニカラグア	71	83	86	3.6	5.7	88	2.1	5.8
ウルグアイ	52	54	67	23.8	4.4	61	▲ 9.1	4.0
その他	18	22	58	170.8	3.9	53	▲ 8.7	3.5
合計	1,360	1,387	1,516	9.3	100	1,518	0.2	100

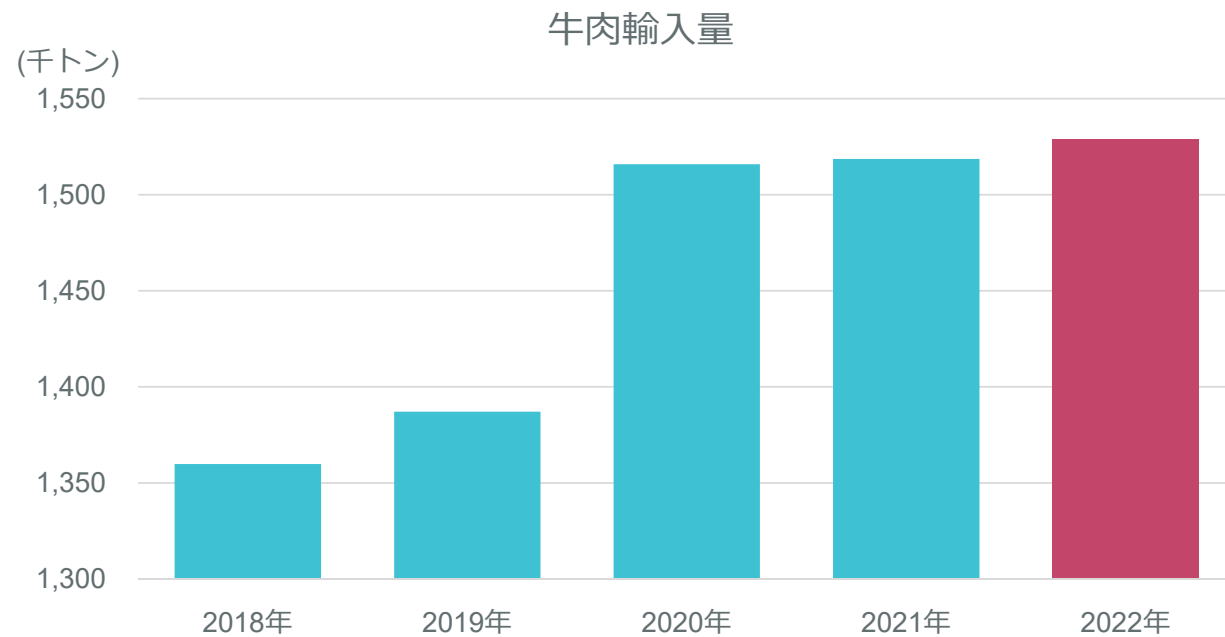
資料：USDA/ERS「Livestock, Dairy, Poultry Outlook」
注：数値は枝肉重量ベース。

牛肉輸入量

10

2022年牛肉輸入量は
前年と同水準

- 2021年牛肉輸入量はほぼ前年同。
- 2022年牛肉輸入量も**同水準で推移**。
- 干ばつからの回復により、**豪州産牛肉生産量が増加**する見込み。



資料：USDA/WAOB「WASDE」

注1：2022年は予測値。

注2：数値は枝肉重量ベース。

米国政府と食肉業界の牛肉輸出の取組

11

海外市場の新規開拓

□ 新たな海外市場に目を向ける

【UAE】

2月に農業貿易ミッションとして、ヴィルサック長官がUAEドバイを訪問。

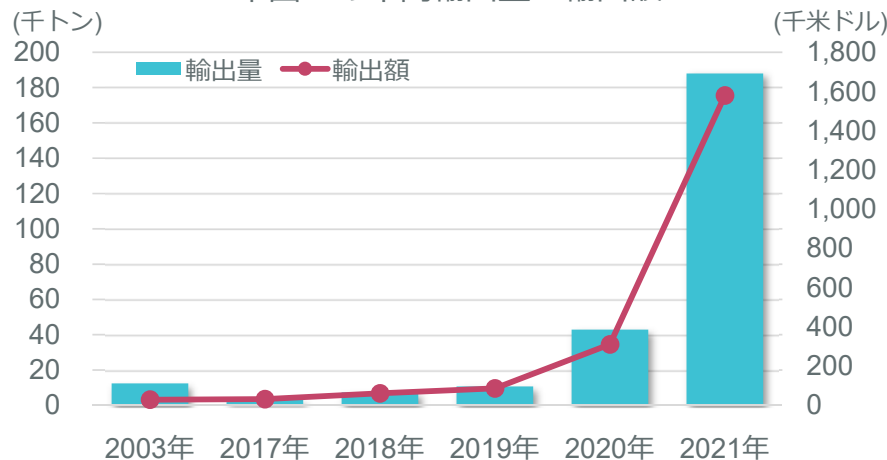
【中国】

米国産牛肉の販売促進に向けて、レストランのシェフ、牛肉加工業者の訓練を支援。

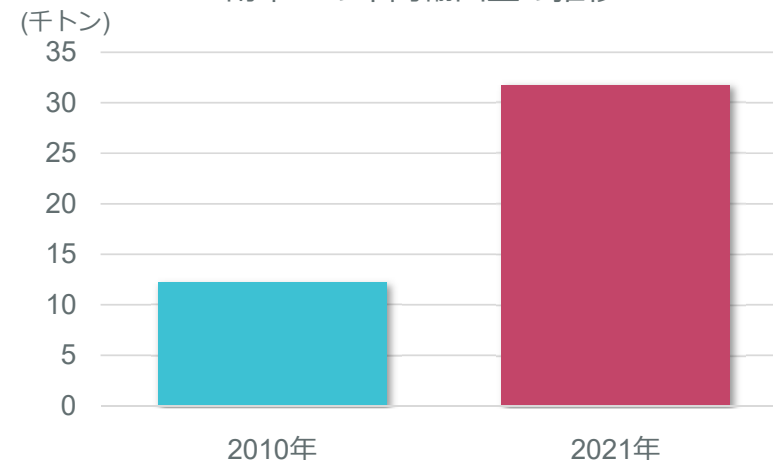
【コロンビア】

小売店での牛肉販売が普及していないため、精肉店プログラムを実施。
さらに、冷蔵管理、加工技術、経営技術などの訓練とセットで牛肉を輸出。

中国への牛肉輸出量・輸出額



南米への牛肉輸出量の推移



資料：USMEF
注：バラエティーミートの輸出を含む。

米国政府と食肉業界の牛肉輸出の取組

12

食文化を重視した輸出戦略

□ 国・地域ごとの味覚・嗜好性・食文化を重視（ロイン系以外の部位・バラエティーミートの輸出）

【ロイン系以外の部位】

米国内需要のあるロイン系を国内向けに、ロイン系以外の部位を食べる食文化がある国にそれぞれの部位の需要を踏まえた輸出を促進。

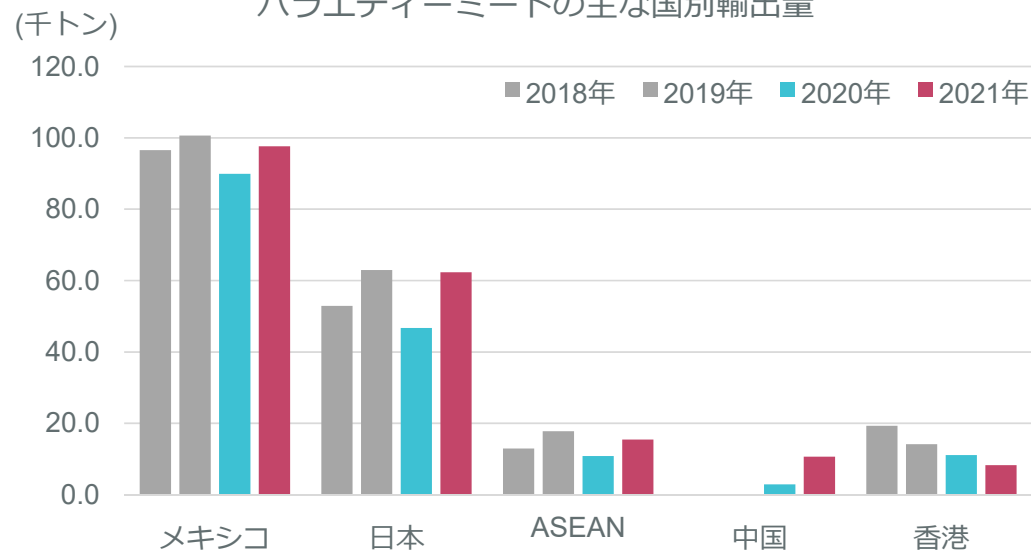
【食用副産物（バラエティーミート）】

バラエティーミートの需要を持つ国への輸出も重視。

ロイン系以外の部位の主な輸出先



バラエティーミートの主な国別輸出量



資料：USMEF
注：ASEANの主な輸出先はインドネシア、フィリピン、ベトナム。

港湾混雑への対応

13

米国政府・港湾は
米国農畜産物輸出を
確保すべく
港湾混雑に対応

2021年9月～ 港湾営業時間の拡大

ロサンゼルス港およびロングビーチ港を24時間体制に。
港湾は保管倉庫や輸送業者などサプライチェーン全体として体制強化を要望。

2021年11月～ コンテナ滞留課徴金の徴収

トラックで輸送するコンテナは9日目以降、鉄道で輸送するコンテナは6日目以降、
コンテナ1個につき1日当たり100米ドルの累積課徴金の徴収を決定。
実際の課徴金の適用は現在延期中。

2021年12月～ 米国政府から海外運送会社に要請

米国運輸省および農務省から主要海外運送会社に対する要請。
① 西海岸の港湾のうち余力のある港湾の活用
② 輸出入の相互待遇の回復

2022年1月～ USDAとオークランド港が提携

オークランド港におけるコンテナヤード整備費用の60%を補助。
同港に寄港するために要する掛かり増し経費コンテナ1つ当たり125米ドルを補助。

米政権アクションプランとUSDA支援

14

米国政府は
食肉・食鳥処理・
加工能力の向上
を支援

- 米政権は、大手食肉企業による寡占規制を強化するための行動計画となる「より公平で、より競争力があり、より回復力がある食肉・食鳥サプライチェーンに向けたアクション・プラン」を策定・発表。
- 米国農務省（USDA）は、本アクションプランに基づき、
 - ・食肉・食鳥処理・加工能力の向上とサプライチェーンの強化
 - ・農村部における雇用・経済機会の創出のための支援を実施。

【アクションプラン・支援の骨格】

1. 独立系施設^(注)の処理・加工能力強化
2. 労働者・業界支援
3. 規制強化
4. 競争法の公正な執行
5. 家畜市場の透明性確保

注：独立系施設とは
「大手食肉会社に依存しない中小規模の施設」
のこと

独立系施設の処理・加工能力強化

15

米国政府は
食肉・食鳥処理・
加工能力の向上
を支援

- 米政権は「食肉大手企業の処理・加工業者が多額の利益を得ている一方で、畜産農家に収益が行き届いていない」として、独立系施設の食肉処理・加工能力を強化することで、市場の競争性の回復を図ることとした。
- USDAは、アクションプランに基づき、施設・設備の整備、運転資金の確保に向けた支援を実施。

施設・設備の整備支援【合計3億7500万米ドル】

- ✓ 短期的に最大効果を狙い、**支援施設の新設・拡大、機器機材などの設備整備**を支援。
- ✓ **3月に1億5000万米ドル**を措置（1施設当たりの上限：2500万米ドル）。
- ✓ **夏にはさらに2億2500万米ドル**を追加措置予定。

融資制度の強化【2億7500万米ドル】

- ✓ 金融機関と連携し、独立系施設を対象にした**低金利・長期資金の融資**。
- ✓ 現在、金融機関と調整中。夏には融資を開始予定。

融資保証【1億米ドル】

- ✓ **機器・機材への投資**のための融資保証。

技術支援【2500万米ドル】

- ✓ 事業活用、施設運営への助言。

労働者・業界支援

16

米国政府は
労働環境の改善
人材育成
独立系施設負担軽減
を支援

- 米国政府は「より回復力があるサプライチェーンの構築には食肉処理・加工施設の従業員の労働環境の改善、人材確保などが必要」であるとして、労働環境の改善、人材確保、その他独立系施設の負担軽減に向けた支援を実施。

労働者の適正な賃金および安全な労働環境の確保に向けた支援【1億米ドル】

- ✓ **労働者の訓練、安全な労働環境、適正賃金**の提供に要する体制整備を支援。

専門技術の公開による技術革新の推進【5000万米ドル】

- ✓ 専門技術を公開することで、独立系施設や関係事業者、生産者、生産者・労働者団体などによる**新たな技術の開発や既存技術の拡大**を推進。

学生向け人材育成支援【4000万米ドル】

- ✓ 食肉・食鳥処理・加工分野を専門とする**短期大学や専門学校における労働訓練**を支援。

食肉・食鳥検査体制の維持・強化【5520万米ドル】

- ✓ 連邦検査許可証の取得、共同州間輸送プログラム下での運営に要する費用を支援。

時間外検査費用の軽減【1億米ドル】

- ✓ 時間外および休日検査に要する費用をそれぞれ30%、75%軽減。

規制強化・公正な法執行・透明性確保

17

米国政府は規制強化に取り組みつつ、現行法の公正な執行を図る

- 米国政府は「より公平なサプライチェーンの構築には規制の強化、法令の公正な執行による家畜市場の透明性確保が必要」であるとして、規制強化と新たなツールの開発に取り組む。

パッカー・ストックヤード法に基づく規制の強化

- ✓ **不公正な行為などの明確化、家きんトーナメントシステムの見直し、訴訟時の証明不要の明確化**について、規則改正案を策定中。数カ月以内にパブリックコメントを開始予定。

「Product of USA」ラベルの表示規則の見直し

- ✓ 原産地が明確となるよう表示規則の全面的見直し

オンライン通報ツール

- ✓ USDA および司法省（DOJ）職員による予備審査の上、**適切な機関により調査**。

市場ニュースモバイルアプリ

- ✓ **重要な市場情報を広く提供**することで、中小規模の生産者にとってより公平な競争の場を構築することを目的としたモバイルアプリ

新たな市場報告書の発行

連邦議会との協力

米国を含む**北米の畜産に関する情報**を下記URLから随時発信しています。
ご関心のある方は、是非ご覧ください。



<https://lin.alic.go.jp/alic/week/us.htm>

ご清聴ありがとうございました。

【ご注意】

本日の講演内容は発表者の見解に基づくものであり、報告者が所属する組織の公式見解ではありません。

講演内容および資料は情報提供を目的に作成したものです。主催機関および講師は資料作成にはできる限り正確性を期すよう努力しておりますが、保証するものではありません。本情報の採否は各自のご判断によって行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても、主催機関および講師は責任を負うことができませんのでご了承ください。

アンケートにご協力をお願いします。下記URLのアンケートフォームからご回答ください。

<https://www.alic.go.jp/consumer/foods/event.html>